

成溪會誌

1992.1 No.74



成 蹊 学 園 の 近 況

成蹊学園総務課提供

大学施設整備計画 が着実に進行中

—第Ⅰ期中期計画（研究棟
建設）も着手決定—

学園広報第一九号でお知らせしました大学施設整備第Ⅰ期計画は、現在その内の前期計画が着工となり、教室棟二棟（新1、2号棟）の建築が進行中ですが、これに続く中期計画として、新3号棟（研究棟）の建設に着手することが、十月二十五日開催の学園理事会において決定されました。

この建物は、地下二階、地上十二階の高層建築ですが、地下の一層を資料庫、地上の低層部三層を共同研究施設高層部八層を個人研究室として研究関係施設を機能的に集約するとともに、最上階には、大学や学園の行事・会合の会場その他多目的に使用できるホールを設けています。

他大学にもあまり例を見ない広さの個人研究室をはじめとして、共同研究室等の諸施設、ラウンジその他の共用部分も現施設より随分広くゆとりのある設計となっており、また、研究活動上の便宜のために一、二階から図書館別館への連絡通路が設けられておりま

す。今後更に詳細な実施設計が行われますが、その中では、新しい建物にふさわしいインテリジェント化の検討もなされる予定です。

建物の概要等は以下のとおりです。

◇構造・規模等

鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地下二階地上十二階建て、最高高さ約四八米、延床面積約一、六三〇㎡（三、五一八坪）

◇内部施設の概要

地下二階

機械室、電気室、倉庫

地下一階

資料庫

一階～三階

共同研究室・資料室四、学科研究室二、事務室一、大・中会議室各一、小会議室二、ラウンジ

二
四階～十一階

個人研究室一四二、名誉教授室

一
十二階

大ホール一、小会議室一、パン

トリートリー

◇設備

冷暖房・空調設備

昇降設備（エレベーター）

防災設備

◇工期

平成4年5月～平成6年6月

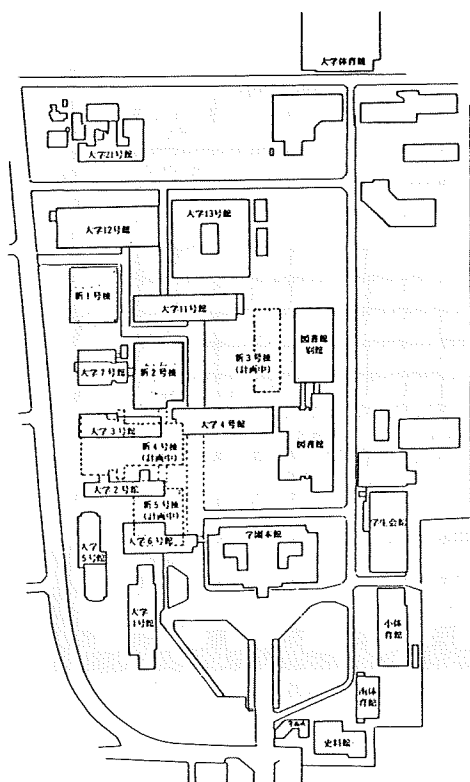
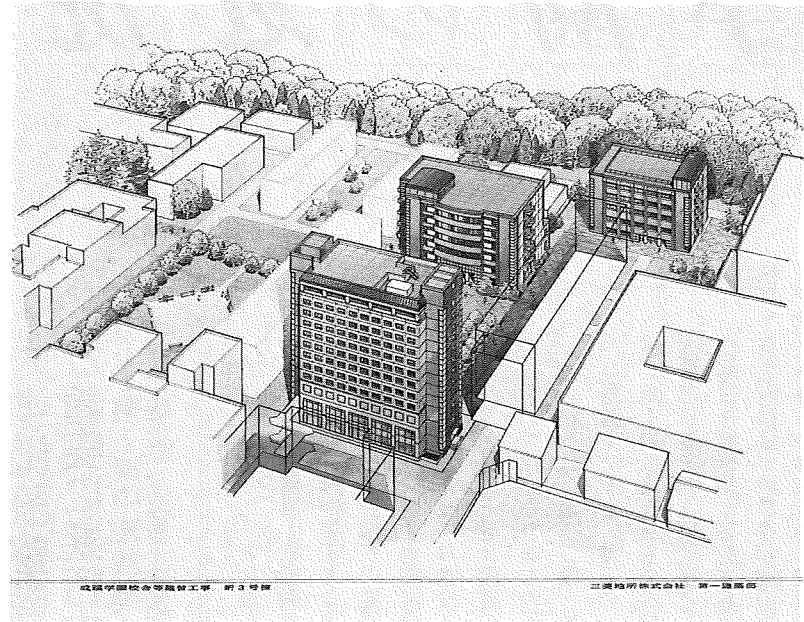


図1：大学施設整備Ⅰ期計画の建物配置

◇設計施工

設計 三菱地所㈱
施工 清水建設㈱・三菱建設㈱共
同企業体

なお、これが竣工しますと、現大学
4号館、図書館等の個人研究室、共同
研究室資料室、学科研究室などは、計
画に従って他の用途に転用され、ある

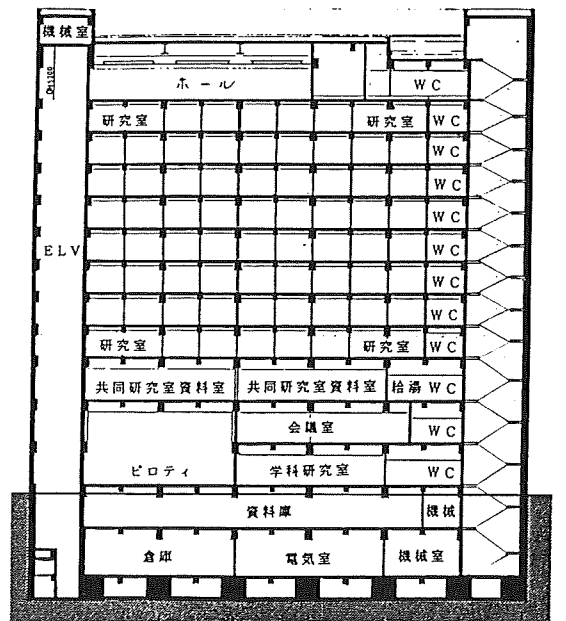


いは取り壊されることになる予定です。
これまでの学園の施設の中では最も
大きく、かつ最も高いこの建物は、大
学がなすべき重要な使命の一つであ
る研究活動の新たな拠点として、未来
に向かって飛躍を目指す成蹊大学を象
徴するかのようには、キャンパスの中央
にそびえ立つことになるでしょう。

学園箱根寮の建替
え工事開始

去る三月二十六日の学園理事会で承
認された箱根寮の建替え工事は、来年
六月の竣工を目指して、八月下旬に工
事が開始されました。

新寮舎の建つ位置は、南に芦ノ湖を
見渡し、北に駒ヶ岳を望み見ることの
できる乗風台の中でも最も眺望の開け
たところです。



新3号棟断面図(西面)

鉄筋コンクリート造地上二階地下一
階建て、延べ面積約二、五二〇㎡(約
七六二坪)の寮舎の概要は次のとおり
です。

◇地階

機械室、電気室

◇一階

研修室(兼宿泊室 四八畳 三室)
食堂(約一五〇人収容) 一室
アトリウム(約一九七㎡)
厨房、監理人・従業員室
浴室(大・中・小各二)
(浴室は中二階になります)

大学の近況

卒業生の皆さまにもぜひご利用いた
だきますようご案内申し上げます。
(別掲は完成予想図です)

短期留学(夏期プログラム)
について

前号でもご紹介しましたが、国際交
流の一環として、本年より、夏期休暇
を利用する本学主催の短期留学がスタ
ートしました。

三十名参加の米国ゴンザガ大学にお
いては八月一日から九月一日の一カ月
間、三十五名参加の英国エディンバラ
大学においては八月三十日から九月二
十二日までの三週間実施され、各二名
ずつの引率教職員のもと、予定された
プログラムをすべて終了、全員無事に
帰国しました。

そこで、学生と共に授業を含むすべ
てのプログラムに参加した引率の職員
から、短期留学について報告してもら
いました。

ゴンザガ大学

— Survival Game in Gonzaga —

かに超える成果をもって修了しました。

ゴンザガ参加者から一言

*素敵な人々に出会い、様々な体験を
したことで、視野が広がった感じがし
ます。(英米・雨宮)

*このプログラムに参加して、とても
楽しく有意義な夏休みを過ごすことが
できました。(文化・石田)

*何もかもが、生まれて初めてのこ
とでした。すべてが忘れられない大切な
経験です。(日文・上野)

*今回の経験は期待していた以上のも
のであり、自分の夢を膨らませること
ができた。(機械・江島)

*英語は上達しなかったけれど、日本
ではできない経験をたくさん味わえて
とてもよかったです。(政治・大崎)

*集団のメリットとして、毎日のよう
に広いアメリカの色々な所に行けて、
楽しめた。(経工・大塚)

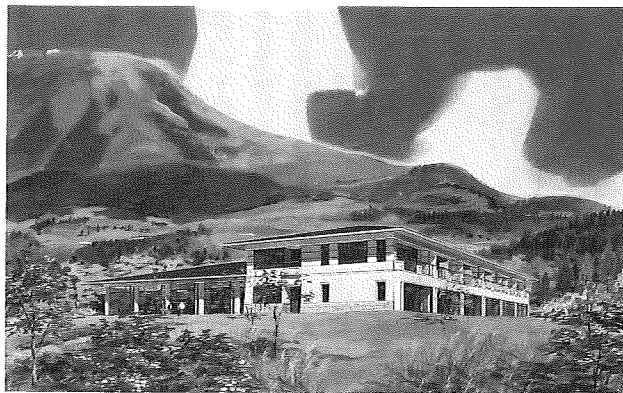
*この短期留学で、英語だけでなく、
自然の雄大さ、そして国際交流の大切
さを学んだ。(文化・大橋)

*忙しくてあまりにも楽しい毎日だっ
たので、英語を話すのを忘れてしま
いました。(英米・加藤)

*現地の人の温かい心と広大な大地の
おかげで、貴重な時を過ごせたとはい
います。

◇二階

宿泊室(和室一七、五畳) 二室
同(和室 七、五畳) 八室
自習室(約二四㎡) 二室
ラウンジ



この建物の設計・工事監理は三菱地
所㈱、施工は清水建設㈱が担当してお
ります。

風光明媚な国立公園内の施設にふ
わしい美しい外観と、学校行事その他
一年を通じていろいろな使用できる設
備とを兼ね備えた新箱根寮の完成が期
待されます。

ます。

(経工・影山)

*成田に到着した時、夢から覚めてしまったようだった。あつという間の夢だった。

(計数・勝田)

*実際に体験することで、アメリカの文化・習慣を学ぶことができ、有意義な一カ月間でした。

(英米・金井)

*最初の二週間はHardなActivityとまずい食事ゆえに、無事に日本に帰れるか心配だった。

(経済・金森)

*大変楽しく貴重な体験ができました。今回得たものを生かしていきたいと思っています。

(経済・菊井)

*良い先生やスタッフに恵まれて、毎日本当に充実し、一生忘れられない経験ができた。

(英米・木下)

*一生かかって経験する貴重なことをこの一カ月で吸収し、視野が開けた気持ちがある。

(文化・後藤)

*将来何になりたいかをよく聞かれ、目的を持たなければならぬと感じさせられました。

(文化・辻)

*今までくすぶっていた好奇心や意欲や可能性が、一気に芽吹いた感じがする夏でした。

(文化・徳山)

*今回の留学は、日本でできないことをたくさん体験でき、アメリカがますます好きになった。

(経営・中原)

*この三十人の仲間と一カ月を過ごし、

プログラムを修了できたことをとても嬉しく思う。

(経営・伯)

*スポーツケン空港を発する際、涙が止まらなかった。それぐらい充実したプログラムだった。

(経済・平岡)

*言語・文化・習慣などが異なっている、互いに通じ合えるという素晴らしいことを知った。

(経営・福興)

*この一カ月で、アメリカの文化・生活に直接触れることができて、嬉しく思いました。

(英米・藤原)

*あつという間の一カ月。良いことも悪いこともあつたけれど、今じゃ、いい思い出です。

(経営・真下)

*一カ月では英語はあまり上達しないが、初めての体験や新しい仲間が多く出会えた。

(大学院・前田)

*日本ではできない貴重な経験と、それを可能にしたスタッフの努力、三十人の仲間への感謝。

(経営・松谷)

*こーんなに楽しくて充実した夏を過ごせたのは、みんなと「ダンボール」のおかげです。

(経済・武藤)

*いろんな経験をさせてもらい本当に楽しかった。一生忘れられない思い出になりました。

(経済・森山)

*多くの素晴らしい人々に出会えたことが、このプログラムでの私の一番の収穫です。

(英米・湯口)

*大きな空と広がる大地から得られた解放感。スタッフの方々の親しみやすさとエネルギー。

(文化・行繩)

*あれほど充実した時を過ごしたことはありません。本当に素晴らしい一カ月間でした。

(経営・横山)

エディンバラ大学

——短期留学に参加して——

エディンバラ大学は、英国スコットランドの首都エディンバラに一五八三年に創立された、学生数約一万二千の大学です。

この短期留学で、全員、英語は完璧にマスターしたと言いたところですが、三週間という短い期間では、なかなかそこまではいかなかったかもしれません。でも、ほとんどの学生が、どんな不備な英語でも、自分の意思・希望・情熱は相手に伝わるものだ、という自信をつけました。まさに、この「自信」こそが外国語会話上達の鍵ではないでしょうか。多くの学生が、自分から積極的に外国人に話しかけることができるようになったのですから。

エディンバラ大学には、日本で行われているような英会話の授業もありました。また、二、四人のグループでテーマを決め(「スコットランド人」と日

本人の食生活の違い」など)、それについて街の人々にインタビューをし(「あなたは、朝食に何を食べていますか。」など)、内容を検討整理して発表するというような授業もあり、これが非常に難題でした。

参加学生は、異国の地で、教室内の授業を受けるだけではなく、外へ出てだれの助力もなく独りで行動しなくてはなりません。街でのインタビューでは、英語で質問を考え答えを聞き取り、英語で発表するのです。学生たちもインタビューは少々恥ずかしかったようですが、エディンバラの人々はとても根気強く、親切に協力してくれました。またエディンバラ大学の先生方も、熱心に学生の発表を聴いて下さいました。参加者にとっては厳しい授業とりましたが、終わってみると、これが「自信」につながっているのです。

一方、このような忙しいプログラムの合間をぬっての自由時間も、思いのまま、とは、なかなかいきませんでした。食事をするときチップはいくら出すのか、旅行をするにも列車の切符の買い方がわからないなど何をするにも言葉と文化の勉強です。

乗り口でまごまごしてバスの運

をさいて参加いただき、心から御礼と感謝を申し上げます。

七月にはジェトロの招待による外国の中学校の教員が中学校のG組の授業を参観されました。G組の生徒の中にかつての教え子が居て劇的な再会といった場面もありました。

次に、海の学校、山の学校に参加した生徒に思い出を、高校野球部の主将

に近況を書いてもらいましたので紹介します。

(中学・高等学校教頭 松田淳一)

夏の学校の思い出

中一 飯島光一朗

夏の学校といえば鮮明に思い出す事が二つある。

その一つは遠泳。三キロメートルも泳ぐのは初めてなので不安であったが楽しみでもあった。午前十時に出発し目的地に向った。水がとても冷たくて足がしびれ、かつ一向に目的地に近付かない。さらに力を抜くとすぐ沈んでしまい最悪の状態、何度もだめだと思ったが、師範の方々に励まされ完泳できた。岸に着いた時は立っているのがやっとであったがとても嬉しかった。もう一つは検定である。遠泳の後ひいたカゼの為に参加できず、三級を目標としていた僕はとてもくやしい思いをした。

最後になったがお世話になった先生、師範の方々に感謝したい。

山の学校の日記

——七月十九日——

中一 猿渡亜希

とうとう今日は晴れてしまいました。

といっても山に登るのは今日が最後なので、心の中では少し喜んでいました。日差しがとても強かったので、日焼止をたっぷりぬりました。帽子もちゃんとかぶって、なるべく焼けないようにしました。地蔵峠でもう一度首の後ろに日焼止をぬって出発しました。最初からかなりきつい坂が続く、山の麓まで来ました。草いきれがムンムンしていて、頭がボーッとしてしまいました。そして烏帽子岳の頂上についた時、思わず「わあー!」と叫んでしまいました。登りながらもちらりとみえたのですが、この時期、くつきりみえることはほとんどないとされる富士山がみえ、北アルプス・ハケ岳もはつきりみえました。山の連りにまだ少しだけ雪が残っていました。空をみると吸い込まれそうなほど青く、所々に雲があつて、夏だな、と思いました。行きはいいやったのですが、本当に心の底から、登ってよかったな、と思いました。

高校野球部

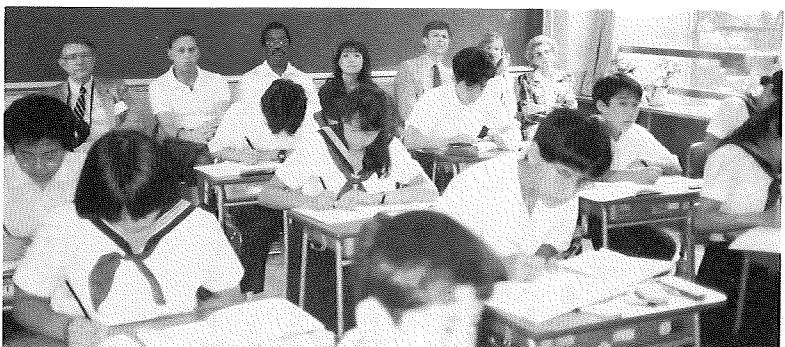
高二 須沢誠治

高校野球部は現在、週六日間、練習をしております。日曜の試合を週の目標として、火曜から土曜まで努力を重ねています。しかし、二、三年生で演

中学・高等学校の近況

(成蹊大学学長室)

今年も、中学校の京都・奈良への修学旅行、夏の学校、高等学校の学習旅行など二学期に予定されていた行事は無事終了致しました。特に夏の学校においては、多くの卒業生に貴重な時間



習授業を受けている生徒も多く、全員が揃って練習できるのは水曜と土曜だけです。従って、基礎的な練習は勿論の事、チーム練習ができないのが最大の欠点となっています。

成績は夏の大会において、一昨年まで三回戦の壁が厚かったのですが、昨年は五回戦まで進み、ベスト16に入りました。今年は春休みに念願であった関西遠征も果たし、夏に臨みましたが、三年生が少なく、試合の要所で若さが出てしまい、三回戦敗退という結果に終わりました。又、秋の大会は一昨年から会場校（都内で二十校）となり、有利になりましたが、ここ十年間、春の大会への出場権を得ることができず、今後の大きな目標となっています。

最後に、高校野球部は部長に宮本浩司先生、総監督に小野先生、監督にOBでもある両角雄功先生、コーチに同じOBの齊藤公彦氏、藤野裕司氏に見守られ、練習に励んでおります。そして、夏の大会では多くの成蹊関係者が応援に来て下さり、大変、感謝しています。今後共、ご指導の程、よろしくお願い致します。

小学校の近況

■学校週五日制のアンケート結果

平成三年四月から実施しました、週五日制が、家庭内において、どのような状況にあるのか実態調査をしました。三か月余の経過について、六百名の回答から要点をご報告いたします。

◇項目別結果（土・日の二日間の活用状況調査）

A——効果的活用をしている。

（四四一名 74%）

①身心の回復に役立っている。

（三七九名 63%）

②親子の対話の時間が増えた。

（二一九名 37%）

③子ども同士（学友）のつき合が増えた。

（二五九名 27%）

④自然に親しむ機会が増えた。

（二五三名 26%）

⑤復習ばかりでなく、学習のゆとりができた。

（七六名 13%）

⑥自分で企画し、実行できる時間が増えた。

（六五名 11%）

⑦通院したり、他人を見舞ったりできる。

（四九名 8%）

⑧社会教育に参加できる。

（三七名 6%）

B——まだ十分に活用していない。

（一五七名 25%）

①何を計画し、実行していいか不明。

（八七名 15%）

②金・土曜の就寝が遅くなった。

（七三名 12%）

③むだに過す時間が増えた。

（五七名 10%）

④テレビゲームに熱中している。

（二一名 4%）

⑤子どもの交際が増え、親もたいへん。

（二五名 3%）

C——二日間にとまどっている。

（一四名 2%）

①勤務の都合で親が休めない。

（六名 1%）

②遊びすぎて疲れる傾向がある。

（四名 1%）

③月曜日の体調が悪く疲れやすい。

（三名 0.5%）

◇家族の状況が一致した家庭と、幼稚園や他の小学校などと一致しないためのとまどい、すれちがいによる気配りもたいへんなようです。混雑なく展覧会、公的、私的な機関が利用できたり、通院治療が可能になったりの利点も実際に増えています。

今後は、人格の基礎づくりと、成蹊中学進学への学力の基礎固めが現実の問題として教師に問われる番になりました。

■夏の学校について

○一年生「箱根」(21→23)・二泊三日
○二年生「箱根」(17→20)・三泊四日
○昨年度より一泊減。授業日は一日増となる。

○三年生「土湯」(18→22)・四泊五日
(清里方面へ変更、決定)

○四年生「弓ヶ浜」(16→21)五泊六日
(波左間へ変更、決定)

○五年生「志賀」(18→23)五泊六日
(三月冬の学校5→9)

○六年生「波左間」(21→26)五泊六日
(一月冬の学校17→21)

今年度は、天候にめぐまれて、ほぼ完全実施となりました。海水温が低かったり、濃霧のため山登りができなかったりはありませんでしたが、たいした事故もなく目的を達することができましたこと、関係の皆さまに心から御礼申し上げます。特に、小学校の夏の学校の行事は、成蹊学園の先輩諸氏のご援助なければ成し得ない行事であることを申し添えさせていただきます。

(小学校長 吉川五男)

成蹊会報告

平成3年5月1日
平成3年10月31日

一、会 議

○理事会

第107回理事会(3・5・24)

- (1) 平成2年度成蹊会事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2) 財産目録(平成3年3月31日現在)承認の件
- (3) 成蹊会特別委員会委員選任の件
- (4) 成蹊会特別委員会(教職員)推薦の件

- 第108回理事会(3・7・16)
- (1) 成蹊会会長、副会長、常務理事互選の件
 - (2) 会長職務代行指名の件
 - (3) 第31回謝恩顕彰会開催の件
 - (4) 成蹊会顧問推薦の件
- 中国支部総会(3・6・29)
千葉支部総会(3・7・6)
関西支部会(3・9・28)

○会員総会

第36回通常会員総会(3・6・28)

- (1) 平成2年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件
- (2) 平成2年度財産目録承認の件
- (3) 平成3年度事業計画及び収支予算案承認の件
- (4) 成蹊会評議員選任の件

○評議員会

第38回評議員会(3・7・16)

- (1) 成蹊会理事及び監事選任の件
- (2) 成蹊会顧問委嘱の件

○特別委員会

スポーツ振興委員会(3・5・8)

財務委員会(3・5・9)

育英奨学委員会、学術・教育助成委員会(3・5・14)

二、人 事

○会長・副会長・常務理事(第108回理事会 3・7・16)

会 長 永井 邦夫(旧高8)
副会長 進藤 次郎(中7) 今村 知雄(旧高10)

石坂 泰彦(政経1) 高橋 靖(政経6)
梶谷 玄(高4)

常務理事 谷岡喜久蔵(旧高11)

○理事・監事(第38回評議員会 3・7・16)

○評議員(第36回会員総会 3・6・28)

○印理事(評議員兼任) 27名

△印監事(評議員兼任) 3名

◎印顧問(評議員兼任) 3名

評議員総数 92名

安生 浩(旧高15) 相川 一成(小36) ◎青葉 翰於(実8)
赤羽 紀武(医歯7) 赤星 平馬(中8) ○赤星 有一(法4)

育英奨学委員会 10名

栗飯原景昭(旧高20) 新居 嗣朗(高4) 井本 農一(旧高6)

伊集院 董(旧高12) 岩崎英二郎(旧高15) 小原 正弘(旧高5)

兼子 仁(高4) 藤原 史郎(旧高21) 堀内 好郎(政経5)

前沢 三郎(工1)

学術・教育助成委員会 10名

栗飯原景昭(旧高20) 新居 嗣朗(高4) 井本 農一(旧高6)

伊集院 董(旧高12) 岩崎英二郎(旧高15) 小原 正弘(旧高5)

兼子 仁(高4) 城戸 毅(高5) 藤原 史郎(旧高21)

堀内 好郎(政経5)

財務委員会 10名

池田 重隆(旧高17) 岩堀 和彦(政経8) 緒方四十郎(旧高20)

岸田 昭(旧高22) 小林 繁(旧高16) 高野 健次(旧高17)

高橋 靖(政経6) 牧田 祐治(政経2) 皆木 肇(旧高23)

森本 隆(旧高16)

クラブ委員会 10名

岩佐 威(政経2) 岩崎 健三(政経4) 菅野 建雄(政経13)

斎藤 敏夫(政経2) 滝 秀彦(政経9) 沼野 昌平(政経1)

福田 恒雄(政経1) 森 紀二(政経11) 山室 重隆(政経8)

山本 良介(政経6)

広報委員会 10名

石坂 泰彦(政経1) 金子 暁(政経18) 久保 敏(文5)

小島 勉(政経2) 竹中 巳之(政経5) 藤田 暉夫(政経3)

松田 直子(女28) 松村 坦(政経13) 森 一也(政経6)

山本 亨介(政経3)

スポーツ振興委員会 10名

飯田 太郎(政経15) 内田 秋人(経2) 小宮 六郎(政経5)

力石 浩(法3) 長島 正純(政経6) 西川 廣(政経18)

西川 泰(政経6) 山本 二郎(政経3) 山本 良介(政経6)

横沢規佐良(経4)

○特別委員会委員(第107回理事会 3・5・24)

赤間 義洋(旧高9) 朝倉 孝吉(旧高16) 浅田 衛(経3)
栗飯原景昭(旧高20) 井原 一雄(高7) ○井本 農一(旧高6)
伊藤 昌弘(経10) 碓本 勘二(高8) 池田 重隆(旧高17)
池田 孝夫(高10) 石川 六郎(旧高19) 石坂 一義(旧高13)
○石坂 泰彦(政経1) ○今村 知雄(旧高10) ○岩崎英二郎(旧高15)
○岩崎 寛彌(旧高23) 上原 明(高11) 瓜生 芳久(工8)
○小川 孝一(経2) 緒方四十郎(旧高20) 岡 美紀子(文4)
○岡田 健(工2) 加賀美 郷(経7) ○加藤 俊秀(工4)
○梶谷 玄(高4) 金子 暁(政経18) 川瀬 一馬(実9)
北畠 裕子(女22) 久我 太郎(旧高16) 久保 盛唯(旧高24)
○倉島 喜一(文4) 栗原美能留(中4) ○桑田 桂子(文1)
河野 克彦(小42) ○河野 義克(旧高6) 佐治 邦彦(工2)
○佐藤友一郎(経2) 斎藤 光行(工4) 酒井 四平(政経2)
志関 誠男(工4) ○篠原 周平(高2) ○島田 喜久(女17)
○進藤 次郎(中7) 鈴木 昭郎(政経10) 鈴木 茂樹(文1)
高田 亨(実11) 高取日出子(文9) ○高橋 靖(政経6)
高橋 道哉(工11) ○高橋 元雄(実8) 高橋 龍一(法6)
○谷岡喜久蔵(旧高11) 丹治 誠(高3) ◎丹治 道生(旧高4)
○力石 浩(法3) 土井 厚(旧高13) ○永井 邦夫(旧高8)
長瀬 文男(工8) ○根岸 孝彰(政経10) 根岸 孝昌(小21)
橋本 竹夫(工5) 林 進(経4) 足田 立郎(高18)
平本 勉(法4) 布川 純子(文9) △福田 恒雄(政経1)
藤田 暉夫(政経3) 堀 洋二(医歯4) ○牧田 祐治(政経2)
松沢 裕一(政経8) 松平 一郎(中9) 三橋 啓了(旧高20)
水谷 政静(旧高9) ○宮本 雄治(小27) 武藤 正司(法8)
◎宗像 英二(旧高1) 村井 勇夫(旧高16) 毛利 任宏(法11)
森 紀二(高9) △森本 隆(旧高16) 安田 敬一(政経2)
△山中 良平(政経6) ○山本 龍二(医歯1) ○山本 良介(政経6)
湯川 佳宣(医歯4) 渡辺 次郎(高5)

○同窓会役員

池袋同窓会

会長 進藤 次郎(中7)
副会長 高橋 元雄(実8)
小学校同窓会

会長 宮本 雄治(27)
副会長 小西 清平(29)
" 根岸 孝昌(41)
" 河野 克彦(42)
女学校(やよい会)

会長 島田喜久子(17)
副会長 北畠 裕子(22)
高校(旧制)同窓会

会長 今村 知雄(10)
副会長 石坂 一義(13)
" 安生 浩(15)
" 緒方四十郎(20)
幹事長 栗飯原景昭(20)
副幹事長 久保 盛唯(24)
高等学校同窓会

会長 梶谷 玄(4)
副会長 篠原 周平(2)
" 丹治 誠(3)
" 山本 良介(4)
" 井原 一雄(7)
" 碓本 勘二(8)
" 池田 孝夫(10)
" 上原 明(11)
" 渡辺 次郎(5)
幹事長 森 紀二(9)
副幹事長

副幹事長 疋田 立郎(18)
大学政治経済学部同窓会

会長 高橋 靖(6)
副会長 石坂 泰彦(1)
" 牧田 祐治(2)

" 藤田 暉夫(3)
" 山本 良介(6)
" 鈴木 昭郎(10)

" 金子 暁(18)
幹事長 酒井 四平(2)
副幹事長 松沢 裕一(8)

大学医歯学進学課程同窓会
会長 山本 龍二(1)
副会長 堀 洋二(4)
" 湯川 佳宣(4)
" 赤羽 紀武(7)

大学経済学部同窓会
会長 小川 孝一(2)
副会長 佐藤友一郎(2)
" 疋田 立郎(2)
" 林 進(4)
" 加賀美 郷(7)

大学工学部同窓会
会長 岡田 健(2)
副会長 佐治 邦彦(2)
" 加藤 俊秀(4)
" 齊藤 光行(4)
" 志関 誠男(4)
" 橋本 竹夫(5)
" 瓜生 芳久(8)

副会長 長瀬 文男(8)
幹事長 高橋 道哉(11)
副幹事長 平井 司(12)
" 原 節子(10)
" 石垣 順史(19)

大学文学部同窓会

会長 倉島 喜一(4)
副会長 桑田 桂子(1)
" 布川 純子(9)

大学法学部同窓会

会長 力石 浩(3)

三、催 事

○成蹊会学術賞表彰式(成蹊クラブ 3・7・15 関連記事58ページ)

○第31回成蹊会謝恩顕彰会

(成蹊クラブ 3・9・10 関連記事52ページ)

○第31回日本寮歌祭

(日比谷公会堂 3・10・5 関連記事29ページ)

四、刊 行 物

○成蹊会誌第73号発行(3・7・1)

表紙のことば

易経は、宇宙に大極(大極拳の由来)があつて、そのフラック・ホルのような所から陰陽の気が発し、陰陽の千変万化の組み合わせ(二進法)から万物が生じたとする。現今の物理学と相似の雄渾簡明な世界観である。人間界も陰陽の多彩な離合集散から歴史が生滅している次第で、男女の多様なたたずまいは絵描きのとこしえの主題となる。(荻野 宏幸)

平成4年1月1日
編集兼発行人 谷 岡 喜久藏
発行所 社団法人 成蹊会
〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話 0422-51-2244(直通)・5181(交換)
FAX 0422-54-6766